

その情報は、 友達だけではなく、 「世界中の人々」にも



中学生・高校生の間では、インターネット上に情報を書き込み、それを友達と共有し合うサービスが、普段のコミュニケーションの一端を担っている状況も見受けられます。

その一方で、インターネットの持つ「公開性」という特性によって、本人の思いもよらないトラブルも起こっています。

「公開性」について

インターネット上に公開した情報は、世界のどこからでも閲覧することができます。

しかし、幼いころからインターネットを日常的に使っている子どもたちの中には、それが友達や家族といった身近な人にしか繋がっていないと勘違いをしてしまうことも少なくありません。

【公開した個人情報が悪用された例】

- ・投稿した写真の位置情報から住所を特定され、ストーカー被害に遭った。
- ・生年月日などを書き込むことにより、パスワード等が推測され、乗っ取り被害に遭った。

異なる価値観の存在

インターネット上には、年齢や性別、職業が異なる様々な人がいて、多くの価値観や考え方に触れることができます。

一方、インターネットの特性である「公開性」を十分に理解できていない子どもが軽はずみに書き込んだ内容について、正義感や時には悪意を持って制裁を加えることによりサイトが炎上するなど、危険な一面も持ち合わせています。

子どもたちにインターネットを使用させる際には、前号で紹介しました「情報モラルの判断に必要な要素」のうち、「日常のモラル」を十分に身に付けさせることに加え、インターネットは世界中の人と繋がっているのだという「公開性」についても十分に理解させる必要があります。



保護者の皆様へ

インターネット上で友達と交換する情報について、保護者や先生に見せることができないようなものは、そもそも書き込んではいけないということを、繰り返し教育しましょう。

また、個人情報(氏名や学校名などや写真等)についても、勝手に悪用されたり犯罪被害に遭ったりする可能性があるため、決して軽はずみに公開しないようにすることも併せて教育しましょう。